

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成28年11月10日
【四半期会計期間】	第75期第2四半期（自平成28年7月1日至平成28年9月30日）
【会社名】	第一建設工業株式会社
【英訳名】	DAIICHI KENSETSU CORPORATION
【代表者の役職氏名】	取締役社長 高木 言芳
【本店の所在の場所】	新潟県新潟市中央区八千代一丁目4番34号
【電話番号】	025(241)8111（代表）
【事務連絡者氏名】	執行役員総合企画本部副本部長兼経理財務部長 小出 昭広
【最寄りの連絡場所】	東京都台東区東上野一丁目7番15号ヒューリック東上野一丁目ビル
【電話番号】	03(3833)7893
【事務連絡者氏名】	常務執行役員東京支店長 亀井 孝秋
【縦覧に供する場所】	第一建設工業株式会社 東京支店 （東京都台東区東上野一丁目7番15号ヒューリック東上野一丁目ビル） 第一建設工業株式会社 長野支店 （長野県長野市中御所四丁目4番18号） 第一建設工業株式会社 秋田支店 （秋田県秋田市中通四丁目17番12号） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第74期 第2四半期累計期間	第75期 第2四半期累計期間	第74期
会計期間	自平成27年4月1日 至平成27年9月30日	自平成28年4月1日 至平成28年9月30日	自平成27年4月1日 至平成28年3月31日
売上高 (千円)	20,661,512	21,309,330	48,437,645
経常利益 (千円)	2,029,508	1,796,993	5,129,480
四半期(当期)純利益 (千円)	1,329,455	1,213,880	3,356,890
持分法を適用した場合の投資利益 (千円)	-	-	-
資本金 (千円)	3,302,375	3,302,375	3,302,375
発行済株式総数 (株)	20,858,491	20,858,491	20,858,491
純資産額 (千円)	47,619,612	50,225,176	49,945,915
総資産額 (千円)	58,729,910	61,290,644	62,429,137
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	64.57	58.96	163.05
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
1株当たり配当額 (円)	-	-	26.00
自己資本比率 (%)	81.08	81.95	80.00
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	9,196,243	2,314,824	11,265,540
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	3,163,314	1,380,359	3,977,071
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	497,877	538,438	506,656
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高 (千円)	18,480,708	20,073,497	19,677,470

回次	第74期 第2四半期会計期間	第75期 第2四半期会計期間
会計期間	自平成27年7月1日 至平成27年9月30日	自平成28年7月1日 至平成28年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	32.49	38.11

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度にかかる主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 持分法を適用した場合の投資利益は、関連会社がないため記載しておりません。
4. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において当社が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第2四半期累計期間の売上高は、前第2四半期累計期間比6億4千7百万円(3.1%増)増収の213億9百万円となりました。これは、当第2四半期累計期間に受注した工事の進捗に伴い施工高が増加したこと等によるものであります。

売上総利益は、前第2四半期累計期間比2億7千万円(8.3%減)減益の30億1千万円となりました。これは、売上高の増加があったものの、完成工事総利益率が低下したこと等によるものであります。

販売費及び一般管理費は、前第2四半期累計期間比2千3百万円(1.7%減)減少の13億5千5百万円となりました。

これにより、営業利益は、前第2四半期累計期間比2億4千7百万円(13.0%減)減益の16億5千5百万円、経常利益は、前第2四半期累計期間比2億3千2百万円(11.5%減)減益の17億9千6百万円、四半期純利益は、前第2四半期累計期間比1億1千5百万円(8.7%減)減益の12億1千3百万円となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

(建設事業)

建設事業売上高は、前第2四半期累計期間比5億9千1百万円(2.9%増)増収の209億3千6百万円となりました。これは、当第2四半期累計期間に受注した工事の進捗に伴い施工高が増加したことを主な要因としたものであります。また、セグメント利益は、前第2四半期累計期間比2億7千9百万円(15.4%減)減益の15億3千3百万円となりました。これは、売上高の増加があったものの、完成工事総利益率が低下したこと等によるものであります。

(不動産事業)

不動産事業売上高は、前第2四半期累計期間比5千6百万円(17.8%増)増収の3億7千2百万円となりました。これは、賃貸用不動産の売上高が増加したことを主な要因としたものであります。また、セグメント利益は、前第2四半期累計期間比3千1百万円(34.7%増)増益の1億2千1百万円となりました。これは、売上高の増加を主な要因としたものであります。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間のキャッシュ・フローの状況については、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、23億1千4百万円の収入超過(前第2四半期累計期間91億9千6百万円の収入超過)となりました。これは、債権回収による売上債権の減少等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、13億8千万円の支出超過(前第2四半期累計期間31億6千3百万円の支出超過)となりました。これは、有形固定資産の取得による支出や投資有価証券の取得による支出等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、5億3千8百万円の支出超過(前第2四半期累計期間4億9千7百万円の支出超過)となりました。これは、配当金の支払い等によるものであります。

これにより、現金及び現金同等物は、3億9千6百万円増加し、現金及び現金同等物の四半期末残高は、200億7千3百万円(前第2四半期末残高184億8千万円)となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期累計期間において、当社が対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

(建設事業)

当第2四半期累計期間における研究開発活動の金額は、42,648千円であります。

なお、当第2四半期累計期間において、当社の研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(不動産事業)

研究開発活動は、特段行われておりません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	51,000,000
計	51,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (平成28年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成28年11月10日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	20,858,491	20,858,491	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 100株
計	20,858,491	20,858,491	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成28年7月1日～ 平成28年9月30日	-	20,858,491	-	3,302,375	-	3,338,395

(6) 【大株主の状況】

平成28年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
ピーピーエイチ フォー フィデ リティ ロー プライズド ス トック ファンド(プリンシパ ル オール セクター サブポー トフォリオ) (常任代理人 株式会社三菱東京UFJ銀行)	245 SUMMER STREET BOSTON, MA 02210 U.S.A. (東京都千代田区丸の内二丁目7番1号)	1,866	8.94
東日本旅客鉄道株式会社	東京都渋谷区代々木二丁目2番2号	1,580	7.57
旭調査設計株式会社	新潟県新潟市中央区幸西一丁目1番11号	1,434	6.87
第一建設工業社員持株会	新潟県新潟市中央区八千代一丁目4番34号	1,229	5.89
株式会社第四銀行	新潟県新潟市中央区東堀前通七番町1071番 地1	1,016	4.87
株式会社北陸銀行	富山県富山市堤町通り一丁目2番26号	982	4.70
株式会社秋田銀行	秋田県秋田市山王三丁目2番1号	615	2.95
東鉄工業株式会社	東京都新宿区信濃町34	511	2.45
第一建設工業互助会	新潟県新潟市中央区八千代一丁目4番34号	463	2.22
名工建設株式会社	愛知県名古屋市中村区名駅一丁目1番4号	437	2.09
計	-	10,137	48.60

(注) エフエムアール エルエルシーが、当社の株式を2,253千株(10.80%)保有している旨の大量保有報告書が平成25年9月11日(報告義務発生日 平成25年9月5日)にフィデリティ投信株式会社より関東財務局長宛てに提出されておりますが、平成28年9月30日現在における実質所有株式数の確認ができないため、上表には含めておりません。

なお、その大量保有報告書の内容は以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (株)	株券等保有割合 (%)
エフエムアール エルエルシー (FMR LLC)	245 Summer Street, Boston, Massachusetts 02210, USA	2,253,200	10.80

(7) 【議決権の状況】
 【発行済株式】

平成28年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 271,500	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 20,548,800	205,488	-
単元未満株式	普通株式 38,191	-	-
発行済株式総数	20,858,491	-	-
総株主の議決権	-	205,488	-

(注) 証券保管振替機構名義の株式が、「完全議決権株式(その他)」の欄に400株(議決権の数4個)、「単元未満株式」の欄に16株それぞれ含まれております。

【自己株式等】

平成28年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
第一建設工業株式会社	新潟市中央区八千代一丁目4番34号	271,500	-	271,500	1.30
計	-	271,500	-	271,500	1.30

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第63号）に基づいて作成し、「建設業法施行規則」（昭和24年建設省令第14号）に準じて記載しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期会計期間（平成28年7月1日から平成28年9月30日まで）及び第2四半期累計期間（平成28年4月1日から平成28年9月30日まで）に係る四半期財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

3．四半期連結財務諸表について

四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則（平成19年内閣府令第64号）第5条第2項により、当社では、子会社の資産、売上高、損益、利益剰余金及びキャッシュ・フローその他の項目から見て、当企業集団の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に関する合理的な判断を妨げない程度に重要性が乏しいものとして、四半期連結財務諸表は作成しておりません。

なお、資産基準、売上高基準、利益基準及び利益剰余金基準による割合は次のとおりであります。

資産基準	1.61%
売上高基準	1.20%
利益基準	2.91%
利益剰余金基準	1.80%

1【四半期財務諸表】

(1)【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成28年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金預金	9,777,470	10,173,497
受取手形・完成工事未収入金等	18,573,022	15,754,650
有価証券	10,151,660	10,050,295
販売用不動産	58,266	58,266
未成工事支出金	228,956	414,992
材料貯蔵品	118,145	787,159
繰延税金資産	305,761	305,947
その他	903,239	1,397,584
貸倒引当金	1,940	1,660
流動資産合計	40,114,581	38,940,732
固定資産		
有形固定資産	12,417,787	12,197,297
無形固定資産	81,069	77,772
投資その他の資産		
投資有価証券	9,584,361	9,834,198
その他	1,232,437	1,241,744
貸倒引当金	1,100	1,100
投資その他の資産合計	9,815,699	10,074,842
固定資産合計	22,314,555	22,349,912
資産合計	62,429,137	61,290,644
負債の部		
流動負債		
支払手形・工事未払金等	6,873,127	7,004,741
未払法人税等	1,115,843	644,470
未成工事受入金	384,368	342,889
引当金	100,395	67,615
その他	1,827,833	945,349
流動負債合計	10,301,568	9,005,067
固定負債		
繰延税金負債	350,884	175,881
退職給付引当金	1,272,299	1,332,779
資産除去債務	60,693	61,214
その他	497,775	490,525
固定負債合計	2,181,653	2,060,400
負債合計	12,483,222	11,065,468
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,302,375	3,302,375
資本剰余金	3,338,395	3,338,395
利益剰余金	40,592,815	41,271,431
自己株式	192,608	192,768
株主資本合計	47,040,978	47,719,434
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	2,904,936	2,505,741
評価・換算差額等合計	2,904,936	2,505,741
純資産合計	49,945,915	50,225,176
負債純資産合計	62,429,137	61,290,644

(2)【四半期損益計算書】

【第2四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
売上高		
完成工事高	20,345,162	20,936,715
不動産事業売上高	316,350	372,615
売上高合計	20,661,512	21,309,330
売上原価		
完成工事原価	17,178,554	18,072,988
不動産事業売上原価	201,484	225,848
売上原価合計	17,380,039	18,298,837
売上総利益		
完成工事総利益	3,166,607	2,863,727
不動産事業総利益	114,866	146,766
売上総利益合計	3,281,473	3,010,493
販売費及び一般管理費	1,137,456	1,355,349
営業利益	1,903,016	1,655,144
営業外収益		
受取利息	11,826	8,387
受取配当金	85,399	83,301
受取保険金	16,200	36,336
その他	14,665	13,823
営業外収益合計	128,091	141,848
営業外費用		
投資有価証券評価損	1,600	-
営業外費用合計	1,600	-
経常利益	2,029,508	1,796,993
特別損失		
固定資産除却損	3,053	1,112
特別損失合計	3,053	1,112
税引前四半期純利益	2,026,455	1,795,880
法人税等	697,000	582,000
四半期純利益	1,329,455	1,213,880

(3)【四半期キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	2,026,455	1,795,880
減価償却費	808,790	813,826
貸倒引当金の増減額(は減少)	990	280
工事損失引当金の増減額(は減少)	2,630	-
役員賞与引当金の増減額(は減少)	18,286	19,720
退職給付引当金の増減額(は減少)	8,383	60,479
受取利息及び受取配当金	97,225	91,689
有形固定資産除却損	3,053	1,112
売上債権の増減額(は増加)	9,571,415	2,818,371
未成工事支出金の増減額(は増加)	674,013	186,035
材料貯蔵品の増減額(は増加)	594,277	669,014
未収入金の増減額(は増加)	160,999	24,888
仕入債務の増減額(は減少)	715,151	131,613
未成工事受入金の増減額(は減少)	167,946	41,478
その他の流動負債の増減額(は減少)	331,051	307,375
未収消費税等の増減額(は増加)	130,788	546,942
未払消費税等の増減額(は減少)	52,489	488,462
その他	20,636	547
小計	10,114,764	3,294,625
利息及び配当金の受取額	99,727	93,821
法人税等の支払額	1,018,248	1,073,623
営業活動によるキャッシュ・フロー	9,196,243	2,314,824
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の売却及び償還による収入	80,000	100,000
有形固定資産の取得による支出	2,956,040	647,417
有形固定資産の売却による収入	18,626	-
無形固定資産の取得による支出	37,736	8,000
投資有価証券の取得による支出	272,888	837,697
投資有価証券の売却及び償還による収入	5,942	12,755
その他	1,218	-
投資活動によるキャッシュ・フロー	3,163,314	1,380,359
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	490,373	532,570
自己株式の取得による支出	78	159
リース債務の返済による支出	7,426	5,707
財務活動によるキャッシュ・フロー	497,877	538,438
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	5,535,050	396,026
現金及び現金同等物の期首残高	12,945,657	19,677,470
現金及び現金同等物の四半期末残高	18,480,708	20,073,497

【注記事項】

(会計方針の変更)

(平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用)

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を第1四半期会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

なお、この変更による当第2四半期累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

(四半期財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(追加情報)

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期会計期間から適用しております。

(四半期貸借対照表関係)

- 1 投資その他の資産の金額から直接控除している貸倒引当金の額は、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成28年9月30日)
その他	120千円	120千円

「その他」中から直接控除している貸倒引当金は、破産更生債権等であります。

- 2 保証債務

下記の得意先が行うマンション購入者への手付金保証契約に対する保証を行っており、保証額は次のとおりであります。

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成28年9月30日)
アートプランニング(株)	-千円	28,460千円

(四半期損益計算書関係)

- 1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
従業員給料手当	650,108千円	630,190千円
退職給付費用	15,028	20,598
役員賞与引当金繰入額	14,577	14,980
貸倒引当金繰入額	990	280

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

- 1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
現金預金勘定	7,180,708千円	10,173,497千円
有価証券(譲渡性預金)	10,000,000	8,600,000
有価証券(金銭信託)	1,300,000	1,300,000
現金及び現金同等物	18,480,708	20,073,497

(株主資本等関係)

前第2四半期累計期間(自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年6月26日 定時株主総会	普通株式	494,094	24	平成27年3月31日	平成27年6月29日	利益剰余金

当第2四半期累計期間(自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年6月28日 定時株主総会	普通株式	535,264	26	平成28年3月31日	平成28年6月29日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期累計期間(自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	建設事業	不動産事業	合計
売上高			
外部顧客への売上高	20,345,162	316,350	20,661,512
セグメント間の内部売上 高又は振替高	-	-	-
計	20,345,162	316,350	20,661,512
セグメント利益	1,812,618	90,398	1,903,016

(注)セグメント利益の合計は、四半期損益計算書の営業利益と一致いたします。

当第2四半期累計期間(自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	建設事業	不動産事業	合計
売上高			
外部顧客への売上高	20,936,715	372,615	21,309,330
セグメント間の内部売上 高又は振替高	-	-	-
計	20,936,715	372,615	21,309,330
セグメント利益	1,533,357	121,786	1,655,144

(注)セグメント利益の合計は、四半期損益計算書の営業利益と一致いたします。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	64円57銭	58円96銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	1,329,455	1,213,880
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	1,329,455	1,213,880
普通株式の期中平均株式数(千株)	20,587	20,587

(注)潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成28年11月9日

第一建設工業株式会社

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 塚田 一誠 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 清水 栄一 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている第一建設工業株式会社の平成28年4月1日から平成29年3月31日までの第75期事業年度の第2四半期会計期間（平成28年7月1日から平成28年9月30日まで）及び第2四半期累計期間（平成28年4月1日から平成28年9月30日まで）に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書、四半期キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、第一建設工業株式会社の平成28年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。